

公約聞いて模擬投票

愛教大生が協力 刈谷・富士松南小児童

刈谷市選挙管理委員会が主催し、小中学生に選挙の大切さを学んでもらう「選挙前トーク」が十四日、富士松南小学校であった。今年と同市の愛知教育大の学生が初めて講師となって、模擬投票の候補者役も務めた。

二〇二二年から続く主権者教育事業。例年は選管職



校長先生になったら実現したいアイデアを演説で訴える候補者役の大学生
刈谷市富士松南小で

員が講義してきたが、小中学生だけでなく、大学生にも携わってもらい選挙への関心を深めてもらおうと、地元の愛教大に協力を依頼。同大社会科学教育講座の清田雄治特別教授（六三）のゼミで政治学や法学などを学ぶ三、四年生が中心となり、四月から準備してき

た公約を訴えた。

その後、本物の投票箱や記載台で投票を体験。受付や投票立会人なども児童が務め、開票作業にも携わった。三原璃久君（一三）は「良いアイデアばかりで、聞いていて楽しかった。十八歳になったら必ず選挙に行き、政策や人柄をしっかりと見て投票したい」と話した。

選管職員と一緒に作った

スライドを使って選挙の仕組みを解説した愛教大三年の北村志帆さん（二三）は「笑顔で話すことを心掛けたら大きな反応があって良かった。少しでも選挙に興味を持ってもらえたらうれしい」と話した。

本年度の選挙の出前講座は十一月に朝日中で始まった。今月十九日に小垣江東小で、来年二月にも三校で開かれる予定。（神谷慶）

た。

この日は六年生、百十六人がクラスごとに受講。模擬投票では、候補者役の大学生三人が校長先生になったら実現したいことをテーマに立会演説に臨んだ。「友達が増えるように毎日席替えをします」「授業への集中力を高めるため学校を午前十時始まりにします」など、自分たちで考え